

3

節

子供を育む

私たちは、皆、かけがえのない命として生まれ、今日まで育てられてきた。命を育むことの意味や子供に寄り添うことについて考えてみよう。

ワーク 1

① 次の図1を参考に子供をもつことや子供の存在について話し合ってみよう。

メモ

---



---



---



---



---



---



---



---

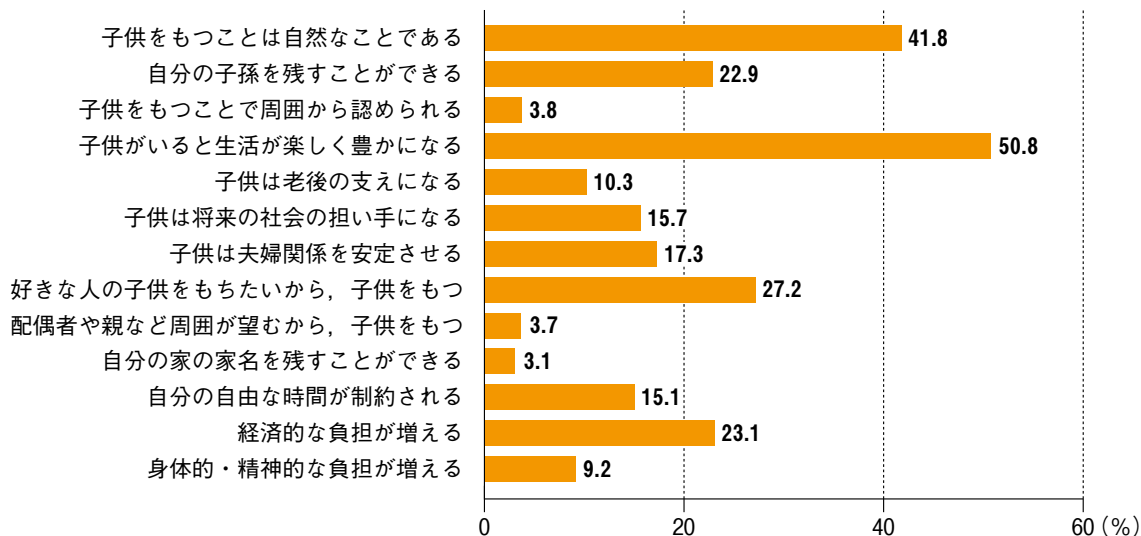


---



---

図1 子供をもつことについての考え方



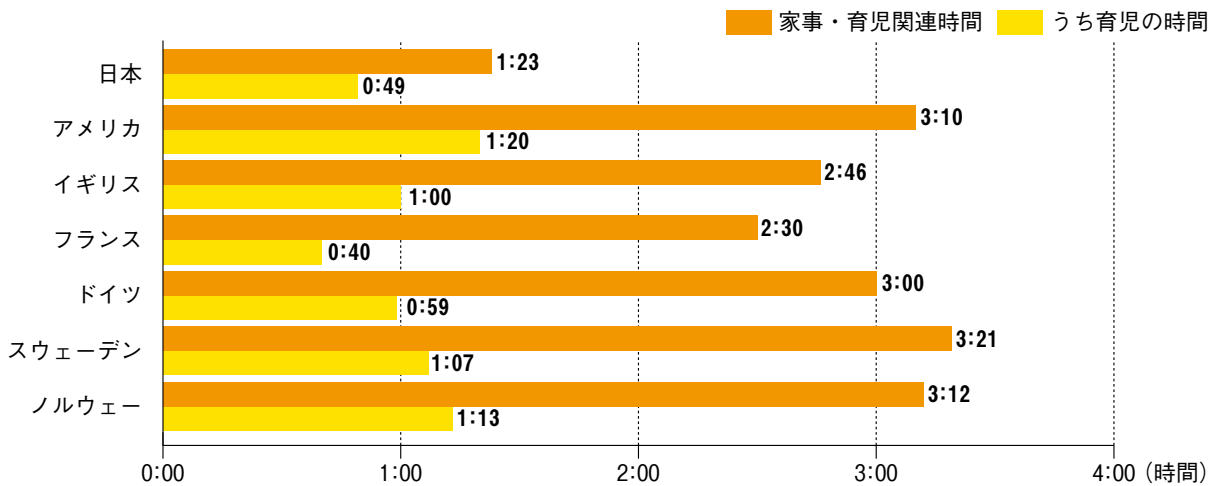
出典：厚生労働省「若者の意識に関する調査」（平成25年）  
 (設問) 子供をもつことについての考え方で最も近いものを三つまで選んでください。  
 (注) 「その他」・「特にない」については、掲載を省略している。

② 将来、子供をもつことについて、あなたの考えを書いてみよう。

**ワーク 2**

図2は、6歳未満の子供をもつ夫の一日の家事・育児関連時間を国際比較したものである。日本では、男性が子育てや家事に費やす時間は1日当たり83分となっており、他の先進国と比較して低い水準にとどまっている。

図2 6歳未満の子供をもつ夫の家事・育児関連時間（1日当たり・国際比較）



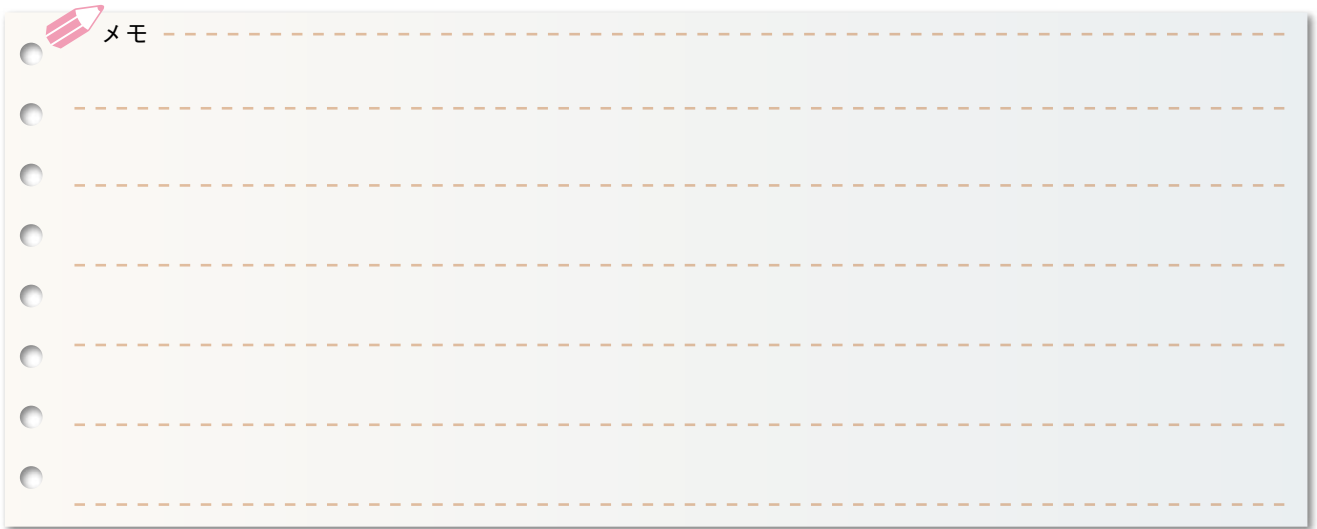
出典：総務省「社会生活基本調査」（平成28年）、Bureau of Labor Statistics of the U.S. “American Time Use Survey”（2016）及びEurostat “How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men”（2004）より内閣府作成。

注1：日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間（週全体平均）。

注2：日本、アメリカは、末子の年齢が6歳未満、EU諸国は6歳以下。

① 男性が、子育てや家事に費やす時間が他国と比べて少ないのはなぜだろう。その理由を書き出してみよう。

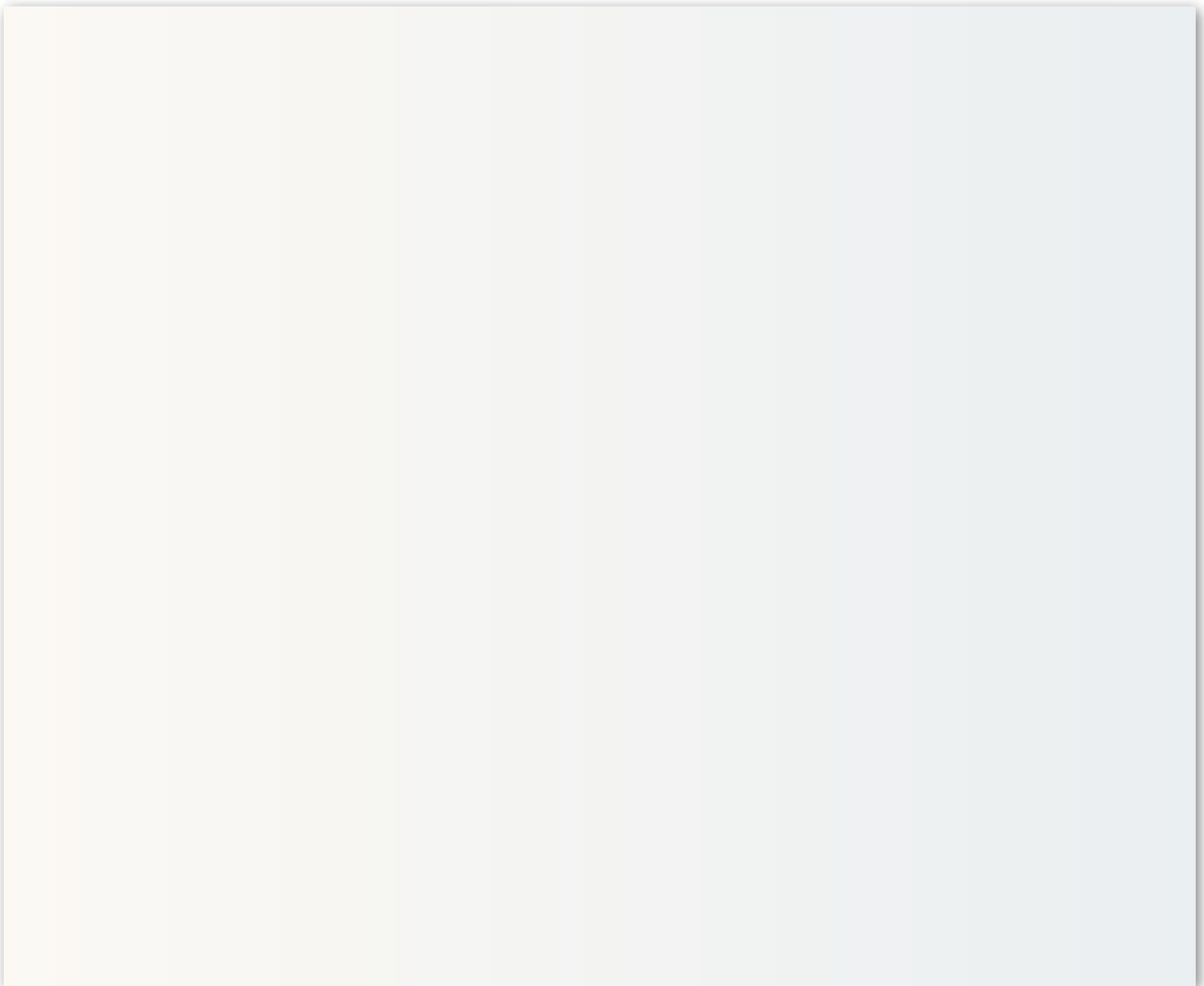
- ② 男性も子育てや家事に参加できる時間を増やすためには、どのようなことが必要だろうか。①をもとに、話し合ってみよう。



メモ

### 振り返り

ワーク 1, ワーク 2を通して、気付いたことや考えたことをまとめてみよう。



## 妊娠・出産に関連して

将来の進学，仕事に加え，結婚や，妊娠・出産をどうするかについては，その時期も含め，あなたの自由な意思に基づいて決めることである。

### ■ 性に関わる行動選択

性に関わる行動は，自分だけではなく，相手の人生にも大きく関わる。「こんなことを言ったら相手に嫌われてしまうのでは」と恐れたり，「まあいいか」と一時の

感情に流されるのではなく，自分にとって大切なことはきちんと相手に伝えよう。また，自分の意思と同じように相手の意思も尊重しよう。

行動選択をする上では，正しい知識を持つことが重要である。性に関する疑問があっても，恥ずかしくてなかなか口に出せないかもしれないが，体や心の悩みを一人で抱えなくてよいことを知っておく。

健康面や経済面などを含め，家族として妊娠や出産の準備ができていのかどうかということは子供の健康を守る上でも重要である。このような観点からは「避妊」が選択肢となることがあり，その方法としてはコンドームやピルが選択肢として考慮される。もし避妊に失敗した場合等には，産婦人科の医療機関を受診の上で，性交から服薬まで72時間（3日間）を超えない間に内服薬で緊急的に避妊する方法が取られることもある。

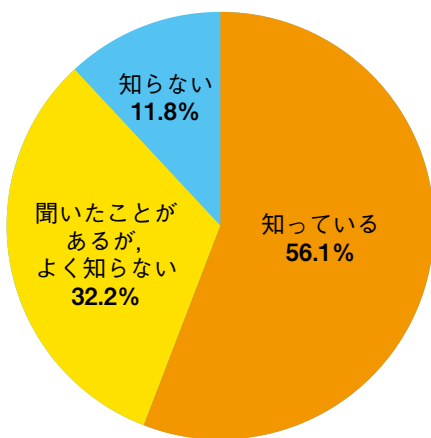
### ■ 子供をもてない<sup>\*</sup>不妊で悩む人もいる

不妊（症）の原因は，男性側の原因が24%，女性側の原因が41%，男女両方の原因が24%，原因不明が11%といわれている。WHO（世界保健機構）（1996年）より

<sup>\*</sup>不妊…生殖可能な年齢の男女が妊娠を希望し，避妊することなく性生活を行っているにもかかわらず，1年以上妊娠しない状態を「不妊」という

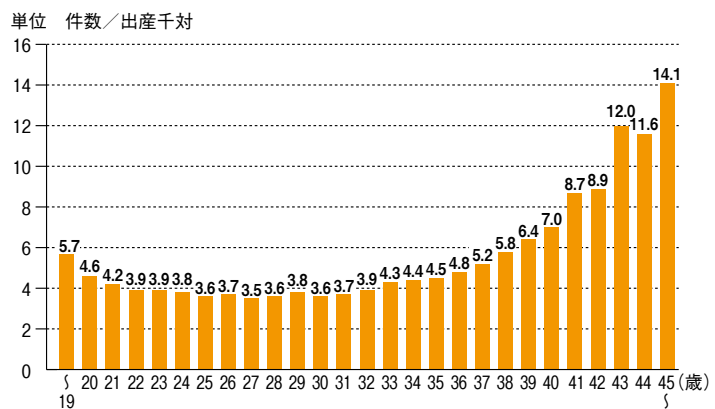
不妊症の原因は，様々な要因があるとされているが，医学的に，精子は加齢とともに作られる数が減少し，また卵子は加齢とともに数が減少するなどの理由により，おおむね30代後半以降になると妊娠しにくくなるなど，男女共に加齢により妊娠しにくくなるといわれている。また，年齢と妊娠・出産のリスクは関連があるとされている。

図3 妊娠と年齢の関係についての意識調査（15～19歳）



出典：厚生労働省「若者の意識に関する調査」（平成25年）より  
注：四捨五入の関係により100%にならない。

図4 年齢別に見た周産期死亡率（平成19～23年の平均値）



注：周産期死亡率は，1年間の周産期死亡数（妊娠満22週以後の死産数＋早期新生児死亡数（生後1週間未満の死亡数））を1年間の出産数（出産数＋妊娠満22週以後の死産数）で割ったもの（出産千対）。（厚生労働省人口動態統計の特別集計を基に母子保健課にて作成）